て風の吹ごとく、一筋のほど茅葦左右へ分れ、何者やらん來ると見えし、樹間にかくれ居て鐵炮さしあげ待ぬるに、むかふのふし木の上へ頭ばかりをさしあげたる、色白く鬢髮うるはしく、眉目はれやかにてかほよき女也けり、されどつねの女の頭三つ四つ合たるほど大きなるが、頭より下は出さゞれば見へず、かぎりなくすさまじかりける、あはや鐵炮はなたんと思ひけれども、しうちはづしたらんは大事なるべしとやはらうごかざれば、かのくびをばし見まはして引こみぬるに、又風吹ごとく茅左右へわかれて、本の路筋にかへりぬと見ゆ、我もあとをさへ見ずにげたりけると語りぬ、山海經にいひけん鵋、馬腸、奢尸、燭陰のたぐひのものにやあらん、ふかき山にはつねならぬ禽獸も多かめれ、

〔百練抄七近衛〕久安六年七月、近日京土訛言、近江美濃兩國、山內有奇獸、夜陰群入村間、食損兒童、俗號之猫狗云々、此事見小野右府記、俗言不違也、

〔駿國雜志二十五〕怪獸

有渡郡小鹿村の山中にあり、里人云、當村小鹿山に一怪獸を生ず、其面猫の如く、手足は猿に似たり、其たけ犬に等く、兩の翼三尺餘也、文政九年二月七日、深山の積雪に堪ず、村中に出て、農夫某に捕らる云々、是何と云獸にや、未其名を知る者なし、

〔本草綱目譯義五十一獸〕貘　和ナシ

中華ニモ稀ニアルト云、此骨至テ硬シ、故ニ佛舍利ニ僞スルト云、集解ニモ出、本邦ニハ惡夢ヲ食ト云、節分ノ寶船ニ貘ト云字ヲ書テ惡夢ヲ食ムト和俗ノ說也、大和本草ニモ見ヘタリ、中華ノ書ニハ未見也、

〔重修本草綱目啓蒙三十四獸〕貘　一名貘象典籍便覽　青豹通雅　黃熊唐類函

和產ナシ、唐山ニモ稀ナリ、爾雅ニ貘白豹ト云ハ豹ノ白質ナルモノニシテ此條ト別ナリ、骨至テ